

2022 年度 事 業 報 告 書(案)

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

前年度に引き続き今年度も、一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、第二次世界大戦時のホロコースト史を教材とした教育事業を小学生から中学生・高校生、大学生、一般市民を対象に広く実施した。

2020 年より開始したオンライン事業を平行しながら、全国の学校への訪問授業を実施した。ホロコースト否認の誤った情報、国内のマイノリティに対する差別や憎しみを煽る言動は変わらずインターネット上で拡散されている。当 NPO の設立以来の事業目的に沿って、歴史の伝承だけでなく、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを前年より継続して目指した。学校訪問授業は 44 回、主催事業は 25 回、計 69 回の実施を通して、延べ 7,256 名に学習の機会を届けることができた。

学習の形態としては、講義だけでなく、問い合わせや哲学対話を取り入れながら、対話を促し、思考を深めるアクティブラーニングを実施した。初の試みとして、ポーランドの国立アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館との共催で歴史研究者および教育者を講師に迎えて三日間の連続講座を開催。また、アンネ・フランクが日記を書き始めて 80 年という節目に、駐日ドイツ連邦共和国大使館との共催により、ドイツと日本の高校生を繋いだオンラインスタディツアーオーを開催した。

戦後 80 年の節目に企画され、新型コロナウィルス感染症拡大により延期されたドイツ国際歴史フェスティバルが 2 年越しで 9 月に開催され、日本の若者 15 名を含む世界の 18~30 歳が 250 名がベルリンに集った。当 NPO もワークショップの企画・運営の依頼を受けて参加した。国や民族やそれぞれに背負う歴史の違いを超えて、ともに歴史から学び、対話する場がつくられたことは、今後の事業への大きな参考となった。

インターン 3 期生と 4 期生として計 5 名の大学生を迎え、研修を実施しながら、上記の様々な事業にスタッフとして参加してもらった。4 期生は企画や広報まですべてを担当し、イベントを実施した。歴史を学び、社会に対話の場を創造する担い手としての育成にも繋がる非常に有意義な取り組みとなった。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業（展示パネルの貸出）

ホームページで公開中の下記のオンラインミュージアムに、新たに(4)を制作した。

- (1)「アンネとまちよと希望のバラ」
- (2)「ヤーノシュの物語」
- (3)「若者対話：歴史を知るってどういうこと？」
- (4)「世界に向かって叫べなかったことをわたしたちはここに埋める」

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブクログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,428冊。

3 講演会、セミナー等の開催事業

3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計44回実施した。

1	2022/5/10	北区立田端小学校	小学校	対	ハンナのかばん
2	2022/5/30	東邦大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い合わせ
3	2022/6/2	名古屋外国語大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い合わせ
4	2022/6/6	啓明学園初等学校	小学校	対	ハンナのかばん
5	2022/6/8	愛知大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い合わせ
6	2022/6/11	清瀬第三小学校 6年生	小学校	対	ドラ・グリンバーグの物語
7	2022/6/11	清瀬第三小学校 5年生	小学校	対	ハンナのかばん
8	2022/6/29	自由学園 5年生	小学校	対	ドラ・グリンバーグの物語
9	2022/6/29	自由学園 6年生	小学校	対	ハンナのかばん
10	2022/9/29	中央林間小学校	小学校	対	ハンナのかばん
11	2022/10/5	埼玉大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い合わせ
12	2022/10/12	東京女子学園中学校	中学校	対	ハンナのかばん
13	2022/10/24	田園調布雙葉小学校	小学校	対	アンネ・フランク
14	2022/10/27	桐朋女子高校	高校	対	ハンナのかばん
15	2022/11/17	倉敷芸術科学大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い合わせ
16	2022/11/22	上平公民館	自治体	対	ドラ・グリンバーグの物語
17	2022/11/23	草加母親大会	地域	対	アウシュヴィッツからの問い合わせ
18	2022/11/29	神戸学院大学	大学	オ	社会防災の基礎Ⅰ
19	2022/12/6	厚木市立飯山小学校	小学校	対	ハンナのかばん
20	2022/12/10	千代田区役所	自治体	オ	メモリーウォーク～フランクフルト
21	2022/12/14	セントヨゼフ女子学園 2年生	中学	対	ハンナのかばん
22	2022/12/15	セントヨゼフ女子学園 3年生	中学	対	アウシュヴィッツからの問い合わせ
23	2022/12/17	東京純心女子高等学校	高校	対	ハンナのかばん
24	2022/1/11	明治学院高校	高校	対	ハンナのかばん
25	2022/1/12	愛知教育大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い合わせ
26	2022/1/12	名古屋外国語大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い合わせ

27	2022/1/14	晃華学園	中学校	対	ハンナのかばん
28	2022/1/16	聖心女子学院	中学校	対	ハンナのかばん
29	2022/1/17	座間市立相模野小学校	小学校	対	ハンナのかばん
30	2022/1/19	愛知教育大学	大学	才	ドイツの「想起の文化」に出会う
31	2022/1/24	厚木市教育委員会	自治体	対	ハンナのかばん
32	2023/1/29	KYEUM 企画	地域	対	問い合わせワークショップ
33	2023/2/8	香蘭女学校	高校	対	ハンナのかばん
34	2023/2/13	光塩女子学院	小学校	対	ハンナのかばん
35	2023/2/16	Hebrew Foundation School	小学校	才	ハンナのかばん
36	2023/2/20	鹿沼市立北小学校	小学校	対	ハンナのかばん
37	2023/2/22	綾瀬市立北の台中学校	中学校	対	ハンナのかばん
38	2023/2/24	荏田南中学校	中学校	才	ハンナのかばん
39	2023/3/2	目白研心中学校	中学校	対	ハンナのかばん
40	2023/3/6	鷗友学園	中学校	対	ハンナのかばん
41	2023/3/9	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対	ハンナのかばん
42	2023/3/13	練馬区立開進第三中学校	中学校	対	ハンナのかばん
43	2023/3/17	東京横浜独逸学園	中学校	対	ハンナのかばん
44	2023/3/22	横浜市立霧が丘中学校	中学校	対	ハンナのかばん

3-2. NPO の自主事業として開催

3-2-1 朗読と講演「世界に向かって叫べなかったことを、わたしたちはここに埋める」

開催日時	2022/5/3(火・祝)16:00～18:00
内容	<p>毎年ワルシャワ・ゲットー蜂起の日は「ヨム・ハショア」と呼ばれるホロコーストの記念日にあたる。この節目に、ホロコースト史の最大規模の一次資料である「リングルブルム・アーカイヴ」の朗読と講演の会を開催した。ワルシャワ・ゲットーの中でリアルタイムで書き綴られた命の記録は、未来の世代に届いてほしいという願いとともに地中に隠された。そして戦後、瓦礫と化したワルシャワの街から奇跡的に発見される。その数は30,000点にも及び、世界遺産に登録されている。</p> <p><u>プログラム</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朗読～プロローグ 2. 開会の言葉 3. 朗読～『世界に向かって叫べなかったことを、わたしたちはここに埋める』 演出 大谷賢治郎 脚本 いずみ凜 4. 講演 - 成蹊大学 宮崎悠教授 5. ディスカッション
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計200名
参加者アンケートより	►朗読で伝わってくる当時の想い。力強く感じました。戦争が起こっている今だからこそ、他人事とは思えませんでした。宮崎先生の講演を聴き、当時の方々が記録を残していたことのすごさを感じました。記録を残してくれたからこそ、私たちが当時のことを知ることができたのだと理解できました。研究の成果を知り、今を生きる私たちに何ができるのか考えることが大切であると思いました。(20代)

	<p>▶歴史教育に携わる者として、『リングルブルム・アーカイブ』という超一級の史料のすごさを体感しました。記録が書かれた背景、当事者しか知り得ない迫害の内容、囚われの身の絶望とわずかな希望、そして奇跡的な発見・解読、また記憶の継承を請け負う人々の存在・・・どれを取り上げても、現代を生きる人々の気持ちを動かすと思います。教材として、『アンネの日記』を超える可能性、多様性を持っていますので、教科書・資料集等に掲載されて当然ではないでしょうか。また、朗読も独立した視聴覚教材に成り得ると感じました。このような学びの機会をえていただき、ありがとうございました。(60代)</p> <p>▶朗読劇がとても良かった！言葉を日本語で聞くうちに、まるで書いたご本人の叫びのように感じられ、思わず涙が出ました。現在のウクライナ情勢もあり、今までよりもとても身近な問題として考える時間となりました。(40代)</p> <p>▶感情を揺さぶる朗読と、論理的な学びの講演とがセットになっていてとても良かったです。(40代)</p> <p>▶宮崎先生が、豊富な資料を用いてお話し下さったこと、今、現在進行形の戦争、迫害、身近な差別など含め、今あることになにができるか考え動くことのお話が出た事。とても良かったです。(30代)</p> <p>▶歴史の授業や外部の講演会など、自分でも学習を進めてきましたが、朗読という形でホロコーストの歴史に触れたのは初めてでした。当時の生の声を収めた日記の朗読を聴いたことで、実際に自分に語りかけられているような感覚になり、とても心に刺さりました。(10代)</p>
--	--

3-2-2 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2022/5/31(火)、6/5(日)
内容	前年度からの継続で実施。問い合わせ(QFT、Question Formulation Technique)という手法を取り入れた人権・平和教育のプログラムを教育関係者向けに実施。ホロコーストの歴史を切り取った1枚の写真を教材にして、①質問をつくる ②質問を分類する ③質問を変換する ④質問を選ぶという4つのプロセスを通して、発散思考、収束思考、メタ認知思考という3つの思考力を育むことをねらいとしている。(参考図書"Make Just One Change: Teach Students to Ask Their Own Questions" Dan Rothstein 他著、『たった一つを変えるだけークラスも教師も自立する「質問づくり』』ダン・ロスステイン他著、新評論刊)
会場	オンライン
参加費	無料
対象／参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/14名

3-2-3 国際歴史フェスティバル histoCON in Berlin 説明会

開催日時	2022/6/11(土)20:00~21:00
内容	9月にドイツで開かれる国際歴史フェスティバル histoCON の参加者募集説明会を開催した。ドイツの連邦政治教育センター主催によるイベントで、世界の若者250名がベルリンに集う。同センターより Kokoro も、ワークショップの企画・運

	<p>當と、日本の若者への参加の呼びかけの依頼を受けたため、説明会を企画した。18～30歳の大学生から社会人まで17名が説明会に参加した。</p> <p><u>プログラム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催の「ドイツ連邦政治教育センター」について ・申請方法 ・去年の histoCON オンライン開催の様子を紹介
会場	オンライン
対象／参加人数	17名

3-2-4 高校生ワークショップ「アンネの言葉と出会う、『わたし』と出会う」

開催日時	2022/6/12(日)14:00～16:30
内容	<p>アンネ・フランクが日記を書き始めて80年の節目に、ドイツ連邦共和国大使館と共に高校生ワークショップを開催した。</p> <p><u>開催案内より</u></p> <p>"なぜ人間はおたがいに仲よく暮らせないのでしょう。なんのためにこれだけの破壊がつづけられるのだろう" 78年前に隠れ家でアンネ・フランクが日記に書いたこの問いは、今も私たちの心に突き刺されます。ヨーロッパでナチ・ドイツによるユダヤ人や他のマイノリティの人々への迫害・虐殺が行われていたとき、日本がアジアの国々への侵攻を進めていたとき、息苦しい閉ざされた空間のなかでアンネは、大人たちの不平不満に苛立ち、時に窓から空を見上げ、声を殺して涙し、爆音に怯え、そして恋をしていました。作家になることを夢みてアンネが日記を書き始めて80年目の今年、アンネの言葉に「わたし」たちはどう応えることができるのか。</p> <p><u>ゲスト講師</u></p> <p>作家・マンガ家 小林エリカさん</p>
会場	オンライン
対象／参加人数	高校生30名、大学生ボランティア11名
参加者アンケートより	<p>►アンネの日記は当時の様子がよくわかるものだった。私の読んだ箇所はその日にあった楽しかったことが書かれており、戦時中の辛く苦しい状況下でも小さなことに幸せを見つけて生きていたことが読み取れた。小林エリカさんの『今の私たちの選択が10年後の人々の運命を決めてしまう』という言葉が強く印象に残っている。もしこうだったらと思うことは戦争以外にもたくさんあるので、後悔のないようこれから過ごしていきたい。また第一部の最初の方に見た動画の中で幼い子供たちがヒトラーを支持するポーズ？（手を挙げるポーズ）をしていたのも印象に残っている。当時の同調圧力によって政党を皆が支持していたと考えると、人間は恐ろしいものだと思った。（高校3年）</p> <p>►アンネ・フランクや当時の政策についてはもちろん、今の世界情勢にも結びつけながら考えることができた。「自分が今やっていることが将来誰かを救ったり、殺したりしているかもしれない」。これは戦争だけでなく環境問題についても同じことが言えるだろうし、ウクライナ支援に関しても自分の寄付したお金がロシア兵を殺してしまうことにも繋がるのではないか、など簡単に「正しい」か「間違っている」かでは分類できないことが多いということを改めて今日のイベントで実感した。（高校1年）</p> <p>►小林エリカさんのお話がとても興味深く、共感しました。今の私たちの選択が10年後の</p>

	<p>誰かの生死に影響を与えるかもしれないというお話が特に印象的でした。目前のことだけではなく、10年後 100年後のことを見据えた選択をすること、そのために 10年前 100年前の歴史から学び、共有、発信することが大切なだとわかりました。大学生の先輩方が話し合いをサポートしてくださり、発言しやすい雰囲気で楽しむことが出来ました。(高校3年)</p> <p>▶戦争の責任は教科書に載っている人が首謀者でその人以外は反対する力がないため戦争が止められなかったのだと思っていましたが、改めて戦争の責任を考えてみて嫌々徴兵された人でも戦争によって人を殺しているので変わらないのだなと思いました。(高校2年)</p> <p>▶教員として見学させていただきました。盛りだくさんのプログラムかと思いましたが、あっという間でした。『アンネの日記』を使っての問い合わせ、自分の誕生日や記念日の記述を読む、というアイディアは、高校生にとって作品を当事者意識を持って考えたり、読んだりできる仕掛けだと思いました。大学生のサポートも自然体でとても良かったです。『アンネの日記』は本校の中2の課題図書で、どのようなアプローチをしようか迷っていたので、とても参考になりました。8月の日独の交流会が益々楽しみになりました。(教員)</p>
--	--

3-2-5 中村美耶トークセッション「未完の敗戦 日本とドイツそれぞの戦後」

開催日時	2022/6/19(日)
内容	<p>ザクセンハウゼン強制収容所記念館ガイドの中村美耶さんが「いま会いたい、話したい！」と思う方をお招きして対談する「中村美耶トークセッション」を開催します。第1回目のゲストは、戦史・紛争史研究家の山崎雅弘さん。5月17日に新刊『未完の敗戦』(集英社)を上梓された山崎さんが、現代日本社会の問題に終わらない敗戦の影を見たのは何がきっかけだったのか。なぜ敗戦が「未完」になったままなのか。同じ敗戦国ドイツのナチズムとの向き合い方とは？77年間の戦後の歩みをめぐる対談を開催した。</p> <p>※第20期NPO総会を同時開催</p>
会場	オンライン
対象／参加人数	Kokoro会員、学生、一般／合計56人
参加者アンケートより	<p>▶「表現の不自由展」に行き、《平和の少女像》に込められた沢山の思いを知り、《少女像》の隣に座りました。高校生が書いた、いわゆる日韓「合意」を知って日本軍「慰安婦」の「被害者たちの尊厳はどうなるのかと憤りを感じ」描いた絵を見て、様々なことを考えさせられて、様々なことを思いました。「表現の不自由展」で見たもの、考えたこと、感じたことを、誰かに話したい、誰かと話したいと思ったのに、誰にも話せなかった。いいえ、話さなかったのは私です。同じ日に行った、立川プレイミュージアムの「どうぶつかいぎ展」や「ぐりとぐら しあわせの本展」の写真は自分のInstagramにまで載せたのに。。そんな、自分にモヤモヤしました。なぜ、話さなかったのか、伝えられなかったのか、今日の話を聞いて、まさに、反省すべき戦後の「精神文化」を無意識に受け継いでいた人の中には私もいるのかもしれないと思いました。議論を避け、自分の意見を言うことに抵抗感を持っていて、自分の意見を伝えることが苦手で、何もしない。だから、「負（加害）の歴史」は日本社会から忘れ去っていく。私は、自分自身が「負（加害）の歴史」を忘れない「責任」は果たしているといえるのかもしれません。しかし、二度と繰り返さない「責任」やこれから起こるかもしれない人権侵害、今起こっている人権侵害に対する「責任」は全く果たせていないのではないかと思いました。私に、何ができるのか。「精神文化」を捨て、自分の殻を破るためにはどうすればいいのか。今はまだ、まとまらないし、できるかもわからないけど、第一歩として、この感想を書きました。『未完の敗戦』を読み、その感想をだれかにシェアできたらと思います。(20代)</p>

	<p>►対談の始めに觸れられた新教育指針は、とても興味深かったです。加害の事実から目をそらせようとする日本の歴史認識の中で、このような反省がなされていたのは大切だと思いました。また、教育の現場で日本人は民主主義的な議論をする機会が少ないと、身につまされました。問題意識を持つ、話し合いの俎上に挙げてみる、異なる立場の人同士の対話をを持つことの重要性を感じました。ディベートやディスカッションを授業で取り入れる際も、このような観点に留意する必要を感じました。『未完の敗戦』をはじめ、いくつか紹介された映画にもは触れてみようと思いました。(50代)</p> <p>►今の日本（右傾化・保守派の人たちの考え方など）からホロコーストを見直す、またはホロコースト（人種主義・全体主義など）から今の日本を見るなど、歴史を考える上で、視点のお置き所によって全く異なる様々な様相が見えてくるなと思いました。報道などでよく見聞する両論併記についても、その意味を改めて考えるきっかけになりました。</p> <p>「負の過去」を知ることや反省だけでは確かにつらい。けれど、「負の過去」を認める強さは、過ちを繰り返さずに未来を生きていく原動力になると思いました。(40代)</p>
--	--

3-2-6 アウシュヴィッツ博物館オンラインスタディ

開催日時	2022/8/8(月)、9(火)、10(水)
内容	<p>ポーランドの国立アウシュヴィッツ博物館との共催により、三日間のオンラインスタディを実施した。講師には、ポーランドでホロコースト史の研究と教育の最前線で活躍する専門家 6 名が登壇。通訳は同博物館ガイドの中谷剛さんが務めてくださいました。</p> <p><u>プログラム</u></p> <p>1日目 8/8(月)</p> <p>アウシュヴィッツ・ホロコースト国際教育センターの設立経緯と事業について [講義&質疑応答]ナチ強制収容所システムの中のアウシュヴィッツ [オンラインツアー]アウシュヴィッツ第一収容所</p> <p>2日目 8/9(火)</p> <p>[オンラインツアー]アウシュヴィッツ第二収容所(ビルケナウ) [講義&質疑応答]ポーランドにおけるホロコースト教育 その可能性と障害</p> <p>3日目 8/10(水)</p> <p>[ワークショップ]ホロコースト教育におけるアーカイブ資料と証言の活用 [ワークショップ]反差別と人権教育におけるアウシュヴィッツの意義</p> <p><u>講師</u></p> <p>ピョトル・セトキエヴィチュ博士／アウシュヴィッツ博物館研究センター歴史家 ナタリア・トカチェンコ／アウシュヴィッツ博物館教育部 カタジナ・コツラードマガワ／アウシュヴィッツ・ホロコースト国際教育センター アンナ・スタンチク／アウシュヴィッツ博物館教育部門所属ガイド マレク・クチア博士／ヤゲウォ大学教授。社会学研究所所長</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
対象／参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/42名
	<p>►現地に赴いて歴史に現場に立つ、ということも大切な経験で、2018年のツアーではその意義を肌で感じることができました。一方で、コロナ禍でのバーチャルツアーは 360 度、様々な角度からアウシュヴィッツをガイドしていただき、普段は見られないような場所や角度からの見学が可能となり、博物館の皆さんに感謝いたします。(たとえば、地下牢は撮影禁止でしたが、今回はコルベ神父様のいた部屋を丁寧に案内していただいたり、トイレや洗面所のイラストなども初めて見られました。上空から見るビルケナウの広大な敷地も鳥瞰できました。(中略) 講義も大変勉強になりました。ポーランドの歴史教育に関しては、政治の介入の危険性も感じました。右傾化する政権下で、加害の歴史に目をつぶろうとす</p>

	<p>る傾向は、日本も共通する問題ではないかと憂慮します。憎悪のピラミッドなどは、いじめやハラスメントなど、みじかな問題を考えるきっかけにもなります。</p> <p>►ワークショップは、大きな問題をどのように分析し、解きほぐして行けば良いのかを教えていただいた。また、「差別」などの定義を考えることによって本質に接近できることが分かった。</p> <p>►差別と人権のテーマを参加者のみなさんと一緒に考えられたことは、大変有意義でした。学生のワークショップ（特に個人の体験や心の内面にひもづく可能性のテーマ）を主催していたこともあり、差別・人権といった重いテーマのワークショップで前提とすべき3原則、非常によくわかります。差別や偏見の話は、扱うことが難しい内容ではありますが、こうしたテーマを話し合う機会を作っていくことは、とても大切だと思います。憎悪の一 段階が言葉／会話であるのなら、憎悪への階段を防ぐのも言葉／会話であると思うので。</p> <p>►大変濃厚な3日間でした。改めて人間というものの負の可能性（いかに対人間に対して残酷になれるのか）を知る、考える機会になりました。また、このような状況に至るプロセスを知ることがいかに重要かを再認識しました。（中略）今起こっている例えば戦争についても、目の前の報道のみで決してステレオタイプ化した判断をしないこと、その背景を、プロセスを自分で知る努力をするべきだと深く思いました。この姿勢はすべてに共通するものですね。特に今は世界的に状況のいい時代ではありません。プロパガンダも多いし身を守るためにも急げず学ぶことが大切だと思いました。</p> <p>►偏見やステレオタイプに関する話の中で、「バスに乗って、ジプシー（ロマ）の人の隣が空いていても座ることに抵抗感がある」というお話が、心に残りました。いろんな人種・民族の人たちが共生するヨーロッパと、（少なくとも私の）日常の中でそのような場面にあ う機会が少ない日本の違いを感じました。この先、日本にも色々なバックボーンを持った人たちが生活するようになるであろうことを考えると、考えさせられるお話しでした。</p> <p>►大学で、ドイツの歴史や政治について勉強する中で、過去の歴史が現在でも社会や国家の決定に大きな影響していることを学びました。戦争を実際に経験した世代がほとんどいなくなってしまった中で、どうやって伝えていくのか。ポーランドでも、政府の意向などによって平和教育のあり方が変わるというお話は大変興味深かったです。戦争を実際に体験していない以上、私たちが触れている戦争の情報は誰かが切り取った一部分である可能性があるということは、意識しておかなければいけないと感じました。また、私は以前、広島の平和記念資料館で働く方の講演を聞いたことがあります。その際に、「平和」の考え方は人それぞれ異なること、またその一方である程度の集団（各国民など）が同じような考えを共有していることも事実であるというお話がありました。これは「平和を目指しまし ょう」という共通認識だけでは、解決に向かわないということだと思います。その意味で、今回ワークショップで行ったような、「ステレオタイプとは何か?」「差別とは?」「偏見とは?」と一つ一つの意味を改めて考えることはとても重要だと感じました。戦争の写真や資料は、生々しく、見るだけで戦争の悲惨さを感じるものが多くあります。しかし、見て終わりにせず、そこから自分なりに考えてみることが平和教育における重要さなのだ実感しました。</p>
--	---

3-2-7 日独高校生オンラインスタディツアードイツ連邦共和国大使館共催]

アンネ・フランクの記憶とその先へ

開催日時	2023/8/15(月)、16(火)、17(水)
内容	6/12 にプレ企画として開催したワークショップ(3-2-4)に続き、ドイツ連邦共和国大使館と共にアンネ・フランクの足跡をたどるオンラインスタディツアードイツ連邦共和国大使館共催でアンネ・フランクの足跡をたどるオンラインスタディツアードイツ連邦共和国大使館共催で

	<p>開催した。ドイツと日本の高校生 40 名が参加。</p> <p>1 日目 ベルゲン・ベルゼン収容所記念館(ドイツ) 2 日目 アンネ・フランクの隠れ家(オランダ) 3 日目 アンネ・フランク・センター(ドイツ)</p> <p>案内文より</p> <p>アンネ・フランクが日記を書き始めて、ちょうど 80 年の年月が経ちます。迫害から逃るために、息苦しい隠れ家に身を潜めて、アンネは不安や葛藤、死への恐怖、そして自由への憧れや願いを書き続けました。この夏、日本とドイツの高校生たちがオンラインで出会い、アンネの足跡をたどるスタディツアーレを開催します。2022 年、差別や憎悪、戦争によって混沌とした世界に直面している今、私たちは歴史から何を学ぶことができるのか。高校生の皆さん、学校や地域、国を超えて、一緒に考えてみませんか。</p> <p>「旅」は、アンネが 15 歳で短い生涯を閉じたドイツのベルゲン・ベルゼン強制収容所からスタートします。どのような場所で、何が起きていたのか、虐殺の実態を学びます。次に、オランダのアムステルダムを訪れます。アンネの隠れ家を見学しながら、自由を奪われた生活や孤独や悲しみに思いをめぐらせてみましょう。最後の目的地はドイツのベルリンです。なぜアンネをはじめとする無数の人びとは殺されたのか。どうすれば防ぐことができたのか。「わたし」はどんな世界を生きたいのか。この旅のなかで、みなさんの中にはどんな問い合わせが生まれてくるでしょうか。</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
対象／参加人数	ドイツと日本の高校生 40 名、大学生ボランティア 10 名
参加者アンケートより	<p>▶私は小学生の頃にアンネフランクの伝記を読んだことがあってホロコーストのことなどに興味があったので今回このような機会を通して知ることができて本当に良かったです。ドイツの皆さんとのディスカッションもとても楽しくたくさんの意見が聞けました。なかなかこういう機会はないのでとてもいい経験でした！</p> <p>▶ドイツ人の方がグルディスで積極的だった。日本人ももっと話せたらいいなと思った。英語をもっと使う機会あれば嬉しい。全体的な話題や内容はとても工夫されていて、興味深かった。</p> <p>▶初日は参加できずに本当に悔しいと思うほど 2 日間充実した時間でした。最終回のドイツと日本の教育についてのディスカッションは私の中学卒業論文のテーマだったので、実際の状況を知れてとても勉強になりました。またドイツの方とお話しする機会があれば参加したいです！</p> <p>▶ドイツの学生と交流ができるとても楽しかったです！最終日の議論の時間があっという間に感じられて、あともう少しの間議論して話したかったなとも思いました 😊 今回このイベントに参加して良かったと心から思ったので、またこのような機会があれば是非参加させて頂きたいです。</p>

3-2-8 ドイツ国際歴史フェスティバル in ベルリン

開催日時	2022/9/7(水)～9(金)
内容	ベルリンで国際歴史フェスティバル histoCON(ヒストコン)が開催され、72 カ国から 250 名の若者たちが集った。当 NPO もワークショップの企画・実施の依頼を受け、日本より 15 名の 10～20 代と共に参加した。主催はドイツの連邦政治教育センター(内務省管轄)。

	<p>1952 年に設立されたこの機関は、ナチ時代と東ドイツの歴史を省みつつ、民主主義を確固たるものにするため、市民の政治参加を促すため、様々な教育事業に取り組んでいる。</p> <p>「歴史は、日々の政治の舞台に登場する。つまり私たちの暮らしと切り離せないもの。歴史を知ることは今を理解し、未来を形づくるために欠かせない。過去をふりかえり、未来を展望しよう」というスローガンのもと、4 日間にわたって開かれました。第二次世界大戦とホロコーストの悲劇を経て、1945 年を境に世界は何が変わったのか、何が変わっていないのかを「独立と依存」、「変化と継続性」、「紛争と平和」という三つの切り口から探求した。ウクライナとロシア、アフリカ諸国や中東、アジアの様々な視点から学び考えるための 40 のワークショップが開催され、ゲームや料理、写真、絵画、コラージュ作成、街歩きなど、どれも身体を動かしたり、交流しながら異なる視点に出会えるような工夫がされていて、若者たちの弾ける笑顔が印象的だった。</p> <p>当 NPO は「問い合わせ」ワークショップを主催。BC 級戦犯として裁かれた李鶴来(イ・ハンネ)さんの証言を「問い合わせの焦点」として取りあげた。李さんの名前と出身国は隠して、A 国(日本)の植民地であった B 国(朝鮮半島)のルーツを持つ李さんが、A 国の戦犯として裁かれたことをめぐり、参加者は思いつくままに問い合わせをつくる。そして、その中から一つだけ「わたしにとって最も重要な問い合わせ」を選び、その理由を共有する。さらに李さんの証言を読み進めて、ふたたび「決して忘れてはいけないと思うこと」を一人ひとつだけ選び、理由を話し合った。チリ、ドイツ、ブルガリア、エジプト、アルジェリア、ウクライナなど多様なルーツの若者たちは、李さんのアイデンティティをめぐる苦しみや、戦後に母と再会できなかった悲しみ、補償と名誉回復を求める運動など、それぞれに共感したこととその理由を分かち合った。二時間という限られた時間ではあったが、若者たちはそれぞれに背負っている歴史や現在の社会課題、平和への思いに耳を傾け合った。</p>
--	--

3-2-9 大学生ヨーロッパピーススタディ～オンライン三日間

開催日時	2022/9/12(月)、13(火)、15(木)
内容	<p>大学生協との共催で、オンライン版のヨーロッパピーススタディツアーを実施した。海外渡航がまだ困難な中で、ポーランドとドイツの史跡とライブ中継で繋ぎ、ゲストを招いて学ぶと同時に、大学や学年の枠を越えて出会い対話する場として全国の大学生を対象に提供した。</p> <p>●1 日目 事前学習&アウシュヴィッツ博物館ガイド・中谷剛さんインタビュー ●2 日目 ドイツ抵抗記念館 ●3 日目 ドイツ国際平和村</p>
対象／参加人数	大学生/22 名
参加者アンケートより	<p><u>1 日目 - 事前学習「問い合わせ」</u></p> <p>►一つの答えではなく、「問い合わせ」として自分の考えを言語化することで、素直に、そしてありのままに自身の考えをアウトプットすることができました。また、「問い合わせ」から「問い合わせ」が生まれ、「問い合わせ」と「問い合わせ」がつながる瞬間に、思考の深まりや探究心の高まりを実感しました。</p> <p>►自分が何を軸に考えているのか、改めて認識するきっかけになりました。</p> <p>►まず問い合わせだけを出し合うように努めることで、思考が活性化した。</p> <p>►自分で深く考えることもいいと思うけれど、みんなの考えを聞いてこそ自分の考えも理解が深まる感じた。</p> <p><u>1 日目 - 中谷剛さんインタビュー</u></p> <p>►戦争を学ぶことは、日常や自他の思考・言動を振り返ることにつながり、決して他人事や非日常ではないと強く感じました。平成に生まれた私たちと「戦争の責任」に関するお話を、特に心にくるものがあり、自然と涙が溢れました。</p> <p>►小さな疑問に対しても、たくさんの密度の濃い内容をお話ししてくださり、疑問の解決だけでなく、新たな気づきや新たな疑問を生み出すきっかけに繋がりました。家族などに</p>

も話を共有して話し合ってみたいと思います。

2日目 - ドイツ抵抗記念館セミナー

►若い世代の人たちが自らのため、また家族や同じ思いを持つ人たちのために勇気を持って立ち上がりさまざまな形を持って、ナチスに対しての抵抗をしていたということが、「歴史上の出来事」以上の意味を持って伝わってきました。また、改めて人々の命が簡単に奪われていくという不条理さを目の当たりにし、歴史の一つとして虐殺があったことを当たり前のように過去のこととして受け流してしまう自分もいることに気がつきました。昨日は大きな主語で語ることのリスクを問い合わせて提示していただきましたが、一人ひとりの名前や写真、どんな人であったかを小さな主語に絞って少しあり知るだけで、数字からだけでは見えてこない新たな視点を得ることができました。また、彼らを突き動かしていた現代にもつながる大きな抵抗の理由も知ることができました。現在も、大きな力に対して抵抗をしようと努力している人がたくさんいると思いますが、彼らが行動を起こすために必要であったエネルギーをも少しだけ知れたのではないかと思います。

►スウィング・キッズに興味を持った。彼らに「運動」している自覚があったかは分からぬが、全体主義的な社会の空気を恐れず、自分たちの表現を大切にしていた点に惹かれた。

►特に感銘を受けたのは、ドイツ抵抗記念館が特別な英雄を作るのではなく、人間を対等な存在として捉えていることだ。また、抵抗運動の多様性についても印象に残っている。様々な立場や動機や方法で抵抗した人たちのことを知り、抵抗運動でさえも一括りにできないことを実感した。そして、この多様性は個人の内面にもあり、主張が変わることからは人の無限の可能性が感じられた。

►様々な抵抗運動について知り、「抵抗した人」と一括りにするのではなく、抵抗のあり方やその言動に込められた思いの個別性・多様性に目を向けることが重要であると改めて学びました。また、歴史学習においても、日常生活においても、代表的なもの・注目されがちな人や物事のみならず、それらとともににある声なき声を想像し、その叫びに耳を傾け、寄り添う姿勢が大切であると考えました。

3日目 - ドイツ国際平和村セミナー

►戦争で傷ついた子供たちを救うために、オーバーハウゼンの市民の声からドイツ国際平和村ができたということ、また、治療や食事をはじめとした生活も寄付で成り立っているということにも驚きました。50年ほど前の当時の人々の思いが今も大切に受け継がれていて、そして多くの子供が助けられていることに感動しました。動画や宍倉さんのお話の中から、子供たちの持つを感じました。親と離れて言語もわからない場所で、文化も違う子たちと逞しく共同生活を送ること、すぐにリハビリにチャレンジして自分の限界をたくさん超えて、笑顔で帰国していく姿が印象的でした。また、母国に帰れば、また大きく見た目が変わって、大きくまとめて「障がい者」と呼ばれるかもしれない、そのような中でスタッフの方たちは「諦めなければ、できることがたくさんある」と希望を与えること、そして一人ひとりを同じように愛して尊重する、そのようなお互いが希望を与え合える関係性が素敵だと感じました。

►現在の紛争で傷ついた子どもたちを受け入れ医療援助を行ったり子どもの心に平和の種を蒔いたりするような活動をしているドイツの取り組みに心を動かされながら、日本の現状に思いを馳せました。入国管理局で非人道的な扱いを受け死亡したスリランカ人のウィシュマさんに続き、今度はカムルーンの男性が死亡しましたが、日本では途上国から来た外国人の人権が著しく損なわれている現実があり、このドイツと日本の違いはどこからきているのだろうかと考えさせられました。日本の戦争責任をあいまいにしてきたことも理由の1つであるように思いますが、ドイツ国際平和村のような取り組みを日本が担うために、また、そのような村が必要でなくなる世界を作るために、私たちは何ができるのかということについてしっかりと考えていくべきだと思います。

	<p><u>全体の感想</u></p> <p>►想像以上に学びの多い濃い時間でした。3日間で特に大切だと思ったのは、いろいろな角度から物事を考えていくことです。1つの視点しか持たないと、加害と被害の力関係だけになてしまふこと、大きな主語だけで括ってしまうとそこに含まれなかつた人たちの思いが理解できること、さまざまなリスクがあることを学びました。(中略)一つ一つの小さな言葉や行動の積み重ねで世界が動いていっていること、やり方を誤れば人を傷つけ悲しみを生むということをしっかり覚えていたいです。世界にはまだたくさんの解決されない争いや、争い自体は終結したとなつても今も続く苦しみに悩んでいる方が多くいることを改めて心に留めて、たくさん知ること行動を起こすことを今から始めていきたいです。</p> <p>►普段は絶対にお話を聞けないような方からお話を聞けて、質問もすることができて貴重な時間でした。また同じ世代の人と戦争について語ることが今までほとんどなかつたので、皆さんとお話てきて本当に刺激になりました。戦争について様々な観点から学んできましたが、差別や政治のことなどは現代にも通じる話なので、決して無関係だとは言えないと思いました。戦争を起こさせないという責任を果たすためにも、また多角的に考えるためにも、日本や世界で今何が起こっているのか調べ、色々な立場の人の声を聞くことが大事なのかなと思いました。身近な人と話すときにも少しずつ話題にしていければと思います。</p> <p>►夢のような3日間でした。ゲストスピーカーの方々のお話は感動の連続で、紛争の絶えない世界でこんな実践をされている方たちもいるという事実に大きな希望を持ちました。</p> <p>►「問い合わせ」づくりや皆さんとの対話を通して、簡単に答えの出ないことに向き合い、考え続けることの重要性を学びました。同時に、自他と対話し、互いを受け入れ尊重する、という「平和」に繋がりうる態度・姿勢を学び、実践することができたと感じます。</p>
--	---

3-2-10 オンライン歴史さんぽ～ベルリン編 & ドイツ国際歴史フェスティバル報告会

開催日時	2022/10/1(土)20:00～22:30
内容	ベルリン在住・大学院生の瀧元深祈(みき)さんをゲストにお迎えし、街中に点在するナチ時代の記念碑を案内していただいた。第2部では、今月ドイツ政府主催で開催された歴史フェスティバル(72カ国から250名の若者たちが参加)について報告。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも／59名
参加者アンケートより	<p>►これまで、街中にただモニュメントを置いておくだけでは意味がないのでは?と思っていましたが、今日お話をきいて、それを作る過程や、守っていこうとする市民の姿勢にも、ひとつの存在価値があるのだろうなと感じました。特に、慰霊やパレードなど、集まる場所になっているというお話が印象的でした。拠点があるというのは大事なことだと思います。また、どんな人にも、どんな形であれ、「知っている」ことは大きいなと思います。今は見慣れた光景であり、素通りするような人も、どこかのタイミングで出会いなおしが出来るのかもしれませんと感じました。</p> <p>►記念碑が観光地化している一方で上に乗って遊んでしまう人がいるという問題とさらに、それに対する反応の違いが管理者と設計者の間にあることが興味深く思いました。そして、そのような記念碑が、歴史を伝えるだけでなく、現在の社会的・政治的な活動のための集まる場所となっていることが印象に残りました。</p> <p>►日常の風景の中に埋もれることなく、記憶を喚起・維持し続けていく力がモニュメントにはあると思いました。戦争体験者やホロコースト生還者の方が皆無になる近い将来には、モニュメントの役割や記憶の継承の仕方にも変化が出てくるのかなとも思いました。</p> <p>ドイツ国際歴史フェスティバル histoCON 報告について</p>

	<p>▶画期的なイベントだったことが分かりました。世界中の若者がベルリンに集い、考え、語ることの意義が、参加者の皆さんとの声で伝わってきました。加害の歴史は学ぶべきだ、知らない国のこととは、教えてほしいと耳を傾けた、など、切実な意見が聞かれて、とても心を打たれました。ココロの「問い合わせ」を世界規模で行うと、本当に生きた歴史が学べると思いました。中学生の授業で、ちょうど「原爆投下」をテーマにディベートをやったところだったので、生徒たちにも伝えたいと思いました。</p> <p>▶熱気溢れる現地での様子が伝わってきて、報告や感想を聞くだけで、こちらのテンションも上がりしました。お時間があれば、もっとお話を聞きしたかったです。様々な国若い世代が集って歴史を考える取り組み、貴重ですね。参加したみなさんにとて、かけがえのない経験になったのでは、と感じました。</p> <p>▶様々な国から集まった若者同士が、歴史をテーマにお互いの生の声に触れるというのは、素晴らしい取り組みだと思いました。こうして報告会を開いてくださったことに感謝いたします。kokoro の皆さんの問い合わせワークショップにも刺激を受けました。高校社会科教員をしているので、ぜひ授業にも取り入れて見たいと思います。</p> <p>▶若い世代の人たちの、歴史を知り世界と対話していく姿勢は、とても力強く大きな希望だと思いました。フェスティバル参加で感じたこと・考えたことを、これからも伝えていってほしいなと思いました。</p>
--	---

3-2-11 問いづくりワークショップ[ヘディ・ボームさん講演会プレ企画]

開催日時	2022/10/22(土)
内容	今月末、カナダ在住のヘディ・ボームさんとオンラインで繋いで、アウシュヴィッツを生きぬいた体験をお聞きします。そのプレ企画として、ワークショップを開催します。ホロコーストの歴史を「問い合わせ」というアクティビティを通して、一緒に学んでみませんか。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象／参加人数	どなたでも/18名
参加者アンケートより	<p>▶最近の傾向として社会科の授業でも「問い合わせ」が重視されているので興味深かったです。特に閉じた質問と開かれた質問を変換する活動が発想が広がって面白かったです。(20代)</p> <p>▶問い合わせを通して、自分がどのようにホロコーストを学んでいくのか、どのように社会に向き合い生きていくのかを考える出発点になるのではないかと思いました。(20代)</p> <p>▶歴史的なことでも、現在のことでも、問い合わせることによって、その事柄が自分ごとになり、主体的に考えることができると実感しました。問い合わせには初めて参加させていただきましたが、お互いの問い合わせを聞き、分類し変換する過程で、問い合わせだけでなく相手の思考そのものを尊重し合う空気感が生まれていて発言しやすかったです。大変貴重な体験になりました。オンライン開催のため遠方からも参加しやすく、ありがとうございました。また次回もぜひ参加したいです。(30代)</p>

3-2-12 アウシュヴィッツ生還者ヘディ・ボームさん講演会

開催日時	2022/10/29(土)20:00～21:30
内容	東京のユダヤコミュニティセンターと共に、アウシュヴィッツ生還者ヘディ・ボームさんにカナダのトロントよりオンラインでご講演いただいた。戦後 77 年

	<p>目の今年、歴史の証人から直接話を聞くことができる数少ない貴重な機会として、一人の生還者の体験を通して歴史と出会い、正義とは何か、和解とは何かを考える機会として開催した。</p> <p><u>ヘディ・ボームさんについて</u></p> <p>ヘディさんは1928年、ユダヤ人の大工職人の父イグナツと母エリサベタの一人娘として、ルーマニアのオラデアに生まれました。1944年、15歳のときに、当時ハンガリー領ナジヴァーラドと改名されていたオラデアの街にナチ・ドイツが侵攻します。ヘディさんは両親とともにゲットーに送られ、16歳の誕生日を迎えた翌月にアウシュヴィッツへ移送されます。両親とはすぐに引き離され、ヘディさんはさらにドイツの軍需工場で働くされました。戦後は、両親を失った悲しみや収容所で体験した恐怖は記憶の奥底に沈め、カナダで新しい家族を築きます。90年代に、ホロコースト否定論や反ユダヤ主義の高まりを目にして、ヘディさんは自らの体験を少しずつ若い世代に語りはじめました。そして2015年、「アウシュビッツの簿記係」と呼ばれた元ナチ親衛隊員のオスカー・グレーニングの裁判で証言をしました。</p>
会場	オンライン
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/622名
参加者アンケートより	<p>►ヘディさんの静かで優しい中にも毅然とした様子に感銘を受けました。お話の中にハッとかせられた言葉、生きていく上での指針となるメッセージがいくつもありました。(50代)</p> <p>►私たちのような戦争すら未経験の者がこのような問題に取り組もうとするときに、単に善悪や罪と罰に耳目を奪われがちですが、アウシュビッツ生還者の Hedy さんのような方の口から、「優しさ」や「寛容」という言葉を聞いたとき、本当に大切なものが何なのかを気づかされます。人間の未来を真剣に考えなければと感じました。(50代)</p> <p>►「差別を受け入れない」この言葉が印象に残りました。差別を撲滅しようという運動は広がり続けていますが、人々はどこか、それが世界の当たり前のように受け止めているようにも感じます。絶対に許さない、ダメなことはダメなのだという思いを固く持つことが、これまでにその犠牲になってきた人々への敬意であり、本当に差別のない世界を作るに必要なことなのだとまなびました。(10代)</p> <p>►ドイツでは今も 98才のナチの加害を裁き続けているのには驚きます。日本はどうでしょうか。大切な事実を水に流そうとしたり、死んだ人の責任は追求しないとか、そんな理屈にもならないことをやっているようではすぐに同じ過ちを繰り返しそうで、過去に学ばない愚かさで身を滅ぼしてしまいそうです。(60代)</p> <p>►ヘディーさんが「声を上げて差別がなくなることを諦めてはいけない、そして人には優しくすること」と言っていた部分が特に印象に残っている。辛く苦しいことがあったのに、人に優しくすることが 1 番大切と言えるヘディーさんの心はどれだけ優しいのかと感じた。今回の貴重な機会を無駄にせず、ホロコーストについて勉強し、正しい認識を持ちたいと思う。そして、またこのような機会があったら必ず参加したい。ホロコーストの話とは逸れてしまうが、就活などで気持ちが落ちている中で、ヘディーさんが「自分を信じて、一人一人が社会に貢献できる」とお話しされていたところでとても元気付けられた。(20代)</p> <p>►一人ひとりには大切な役割があり、世界に貢献できるということを信じてほしいというヘディさんの言葉に自分も自信を持ち世界に貢献したいと思った。W.W.IIの傷やホロコーストの傷はまだ世界中に残っており、今も世界でその問題に立ち向かっている人たちがたくさんいるということを知った。ウクライナとロシアの戦争が今起こっているがこのような世界の対立の根源には W.W.II がありこのような問題を解決しなくてはいけないと思った。また、人種や肌の色などで差別されることがあってもそれを受け入れることはしては</p>

	いけないという言葉が講演であり、自分の心に刺さった。（10代）
--	---------------------------------

3-2-13 問いづくりワークショップ～ホロコースト史を教材にした人権・平和教育

開催日時	2022/11/19(土)、27(日)
内容	3-2-2 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
対象／参加人数	教育関係者/10名
参加者アンケートより	<p>▶オンラインの双方向のセミナーは初めてでしたが、歴史を教えたり学んだりすること、歴史に向き合うことに真摯に関わろうとしている先生方や高校生とともに、ありがたい時間を共にすることができました。今回は「問い合わせから始まる」という教育手法の啓蒙と、「キンダートランスポート」という私も知らなかった史実の学びという二つの要素があり、どちらも馴染みのなかったことでしたのでたいへん勉強になりました。</p> <p>▶若いスタッフの方々に誠実な姿勢で司会進行していただけた。問い合わせの体験を授業に生かしていきたい。ホロコーストについての学習をより進めたいと思った。</p>

3-2-14 国連制定ホロコースト国際デー2023 in 東京

開催日時	2023/1/26(木)19:30～21:30
経緯	国連は、アウシュヴィッツが解放された1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定め、加盟国に対して、国や民族、信仰の違いを超えて、この歴史を教育の場で取り上げることを呼びかけている(2005年国連総会決議)。2015年より毎年、この時期に歴史を学び考えるイベントを開催してきた。2023年1月は第9回目として開催した。
内容	ドイツ、ベルリンのヴァンゼー会議記念館より副館長兼教育ディレクターのマティアス・ハース氏をゲストに迎えて講演会を開催。ヴァンゼー会議記念館は、1942年1月20日、ナチ党幹部や警察、外務省、法務省の代表らがユダヤ人虐殺 - 「ユダヤ人問題の最終解決」 - について協議を行うために集まった歴史の現場である。1992年より博物館として公開され、現在は学生や教育関係者、警察官、医療従事者や外交官などを対象にした研修プログラムを実施している。ホロコーストの歴史を学び、現代の社会も振り返りながら考える機会として開催した。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	学生～一般/280名
参加者アンケートより	<p>▶今回の講演会ではヴァンゼー会議という一つの出来事に焦点を当てて、その後のナチスの処分そしてホロコーストの責任追及という視点をあげていて興味深かった。(10代)</p> <p>▶『ヒトラーのための虐殺会議』を鑑賞した後だったので臨場感を持って、今回の講演を聴くことができました。昨年度のホロコーストメモリアルデーの時も参加しましたが、「過去」を刻む素晴らしいひとときを過ごすことができました。(50代)</p> <p>非常に貴重な機会でした。改めてこの会議でごく普通の役人が、普通の事務会議によってひとつの民族を抹消する計画に合意してしまうという、ありえない話ながら、当時のドイツ社会全体の流れを考えれば、日本人でも十分あり得そうな設定だと思いました。このことを学んでおくことは、非常に重要なことと思いました。(50代)</p> <p>▶今回も素晴らしい機会をありがとうございました。大変勉強になりました。第二次世界大戦時よりもさらに多様性な社会が広がっている今、わたしたちが出来るのは、過去に起きた事実を学び、これからの中の共存社会への糧にすべきなのだと思います。そのためにも、この出来事は決して風化させてはいけません。行動ひとりもで多くの方が当事者意識を</p>

	<p>持って学ぶべき歴史だと思います。(30代)</p> <p>►様々な職種の大人を対象とした専門職倫理の研修・教育は素晴らしい取り組みだと思った。学校教育を終えた後でも、差別や偏見、人権意識について学び、考え直せる機会を持つことは素晴らしいと思った。(50代)</p> <p>►大きな学びとなる講演でした。半面会議の内容があまりにも「真面目に、法に従おうと努力し、秩序立てて」行われていたことに人間の持つ「恐ろしさ」を再確認しました。戦争というものは本当に恐ろしいものです。また今回は通訳の方がとても素晴らしく、講演内容に更なる深みを与えていました、(50代)</p> <p>►あまりにも多くの人の運命が、極めて冷淡かつ事務的に決定されたという事実は幾星霜を経ても忘れ得るものではない。過去の出来事を想起し、語り、議論し続ける営みの大切さと難しさは、現今的情勢下で生活する我々にとって極めて重要な示唆を与えるだろう。(20代)</p>
--	--

3-2-15 インターン生企画第一段：オンラインれきしトーク

開催日時	2022/2/24(金)20:00～22:00
内容	インターン4期生の企画・運営で、祖父をオスカー・シンドラーに助けられ現在日本で暮らすラビ（ユダヤ教指導者）を訪問するための事前準備としてオンラインで問い合わせワークショップを開催した。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象／参加人数	18～25歳/8名
	<p>►大変楽しかった。様々なきっかけで参加されている方の意見を機会改めて聞いてゆき、対話したい気持ちが湧いた。</p> <p>►違う価値観の方とも話が出来て有意義な時間を過ごせたが、オンライン特有の話し合いのしにくさがあった。コロナ禍の今難しいとは思うが、対面形式での意見交換の機会も増えると有難い。</p>

3-2-16 絵本ワークショップ『ホロコーストを生きぬいた6人の子どもたち』

開催日時	2022/3/3(金)
内容	Kokoro代表・石岡史子翻訳の新刊絵本『ホロコーストを生きぬいた6人の子どもたち』を用いた問い合わせワークショップを開催。
会場	オンライン
対象／参加人数	一般/25名
参加者アンケートより	<p>►朗読がすごく胸に響き、聞き入ってしまいました。ありがとうございました。</p> <p>►絵本を通して問い合わせ生まれたそれを次に生かそうという素晴らしい贅沢な時間でした。</p> <p>►ただ情報を聞くだけではなく、問い合わせを作ろうとすることでより理解が促されました。そして何より、身近な「絵本」というツールを用いることで、味方も感じるものも広がったように思います。イギリスとドイツの「人」の動きについての史実は、非常に興味深かったです。</p> <p>►問い合わせ体験はとても貴重な体験となりました。普段からホロコーストや二度の世界大戦といった歴史的な暴力に関する文献に触れる時には、自分自身で問い合わせを持つ習慣がありますが、その際には先に答えを出そうと急いでしまい、結局は正答などないということに気づかされ、そして一人での問答はいつも行き詰まってしまっていました。しかし、今回のワークショップにおける問い合わせの体験では、問い合わせの内容を問い合わせること、言い換えようと試みることで、一つ一つの問い合わせを深めていくという過程を経るのでは</p>

	ないかといったことに気づき、改めて認識させていただいた気がしております。
--	--------------------------------------

3-2-17 インターン生企画第2弾：ラビと話そう～「シンドラーのリスト」から

開催日時	2023/3/16(木)13:00～15:00
内容	インターン4期生の企画・運営のイベント第二弾として、祖父をオスカー・シンドラーに助けられ現在日本で暮らすラビ（ユダヤ教指導者）の講話を聞き、対話。
会場	ユダヤコミュニティセンター（東京都渋谷区）
対象/参加人数	18～25歳/12名
参加者アンケートより	<p>►貴重な体験を聞けると同時に普段来ないであろうシナゴーグを見学できた。</p> <p>►ユダヤ教の方のお話を伺えるという貴重な経験ができてよかったです。他の人の意見交換も楽しく、新たな発見があった。</p> <p>►普段は見られないシナゴーグと貴重な祖父のホロコーストの体験談を聞けた、また、それからディスカッションが行えて素晴らしいです。</p>

4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro 通信」（ニュースレター）

Kokoro 通信の2022年度の発行は休刊した。

4-2. 「Kokoro メルマガ」の発行

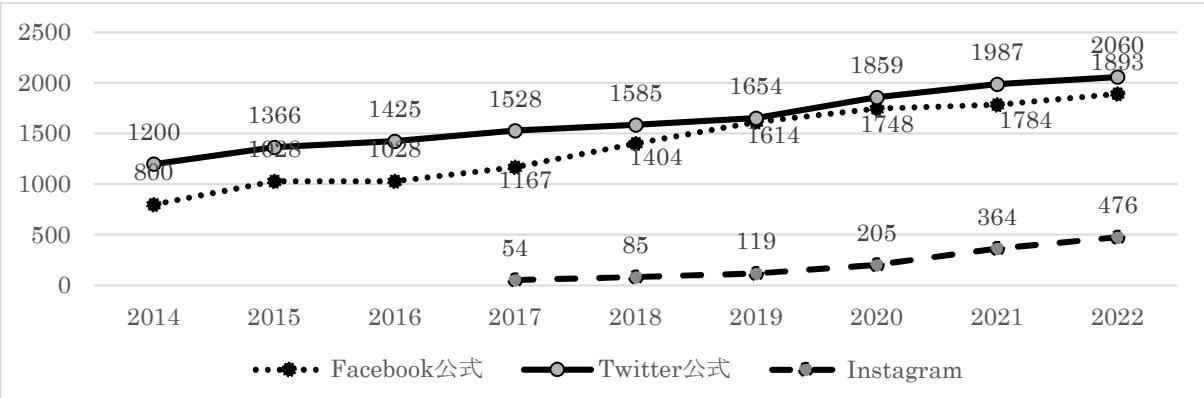
Kokoro メルマガは、8回発行し、イベント情報などを合計6,480名にメールで提供した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	111号	2022/4/30	世界に向かって叫べなかったこと	807
2	112号	2022/5/25	なぜ人間はおたがいに仲良く暮らせないのだろう	807
3	113号	2022/6/13	未完の敗戦	807
4	114号	2022/7/12	アウシュヴィッツ博物館オンラインスタディ三日間	807
5	115号	2022/9/29	72ヶ国の若者がベルリンに集合しました	807
6	116号	2022/10/10	アウシュヴィッツ生還者講演会	810
7	117号	2022/11/19	問い合わせを体験してみませんか	815
8	118号	2023/1/6	今年も国際デーからスタートします	820

4-3. その他のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどのSNSによる定期的な情報発信を継続して行った。「問い合わせ」ワークショップなどイベント参加者のアンケートに寄せられた言葉を発信し、歴史を身近に感じてもらえるような投稿を心掛けた。Instagramではアカウント@KokoroYouthをインターン生が中心となって投稿を作成し掲載した。

►主なSNSのフォロワー数経緯



4-4. メディア寄稿、取材

下記の新聞などで活動が計8回取り上げられた。

1. 2022年4月17日	媒体 朝日新聞 日曜に想う／人の命と尊厳を持ち運ぶもの
2. 2022年6月9日	媒体 The Mainichi(毎日新聞英語版) Tokyo group to hold online recruiting session June 11 for Berlin's Int'l History Festival
3. 2022年6月9日	媒体 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター ドイツで若者が歴史討論 参加希望者向けに11日オンライン説明会
4. 2022年7月30日	媒体 日経新聞 読書／『アンネ・フランクはひとりじゃなかった』 リアン・フェルフーフェン著 ユダヤ人迫害 重層的な記憶 評・NPO法人ホロコースト教育資料センター代表 石岡史子
5. 2022年8月23日	媒体 日経新聞 平和学習オンラインで（日独高校生スタッフ）
6. 2023年1月21日	媒体 毎日小学生新聞 ホロコーストを生き抜いて／体験者の伝えた言葉
7. 2023年1月25日	媒体 Radio Dialogue (Dialogue for People) ホロコーストとヘイトスピーチ
8. 2023年1月30日	媒体 中国新聞 ジュニアライター発 ホロコースト伝える絵本 偏見や差別と向き合って

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネル(オンライン含む)やビデオの制作・提供	随時	事務所	1名	不特定多数	17,260
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNS などでのおすすめ図書の紹介 ブログ(登録 1428 冊)	随時	事務所	1名	教育関係者、一般 100 名	72,055
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会 NPO 自主企画	44 回 25 回	小中高校、大学 オンライン	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般 5,589 人以上 1,667 人	3,302,284
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	ニュースレター作成・配布 メールマガジン ホームページ、ブログ メディア寄稿・出演 SNS ツールの活用 ・ Facebook ・ Twitter ・ Instagram ・ YouTube	0 回 8 回 随時 8 回 週 3 回	事務所	2名 2名 2名 2名 10 名	会員、教員、大学生、保護者など 200 名 8,880 名 不特定多数 不特定多数 不特定多数	750,156